

ヨセフの墓に埋葬される

ルカ福音書23:49-56

(新改訳2017訳)

- 23:49 しかし、イエスの知人たちや、ガリラヤからイエスについて来ていた女たちはみな、離れたところに立ち、これらのことを見ていた。
- 23:50 さて、ここにヨセフという人がいたが、議員の一人で、善良で正しい人であった。
- 23:51 ユダヤ人の町アリマタヤの出身で、神の国を待ち望んでいた彼は、議員たちの計画や行動には同意していなかった。
- 23:52 この人がピラトのところに行って、イエスのからだの下げ渡しを願い出た。
- 23:53 彼はからだを降ろして亜麻布で包み、まだだれも葬られていない、岩に掘った墓に納めた。
- 23:54 この日は備え日で、安息日が始まろうとしていた。
- 23:55 イエスとともにガリラヤから来ていた女たちは、ヨセフの後について行き、墓と、イエスのからだが納められる様子を見届けた。
- 23:56 それから、戻って香料と香油を用意した。そして安息日には、戒めにしたがって休んだ。

【祈りながら考えよう】

- (1) アリマタヤのヨセフとニコデモは、それぞれどんな人ですか。
- (2) ヨセフがイエスの遺体の下げ渡しを、総督ピラトに願い出るようになったのはなぜですか。
- (3) イエスの死は仮死状態ではなかったことを、どの御言葉で確信できますか。

【解説】

(1) 神の国を待ち望む人

ここにヨセフという人がいた。ユダヤ人の中で尊敬を集めていた人、彼は民を代表する長老として、ユダヤの最高議会（サンヘドリン）の議員となっていた。出身の町はユダヤのアリマタヤという所で、アリマタヤのヨセフと呼ばれていた。

この人は、マタイ福音書によると、金持ちであった。マタイ福音書27章57節に、

《夕方になり、アリマタヤ出身で金持ちの、ヨセフという名の人^が来た。彼自身もイエスの弟子になっていた》

ルカによれば、《善良で正しい人であった》。真面目にモーセの十戒、律法を守り行って、正しいことを常に追い求めていた人である。

地位もあり、富もあり、また人間として善良で真面目な正しい人であった。三拍子そろった、何も言うことのない人物であった。

しかし、現状に満足せず、神の国を切に待ち望んでいた人であった。ヨハネ福音書19章38節では、

《その後で、イエスの弟子であったが、ユダヤ人を恐れてそれを隠していたアリマタヤのヨセフが》と、ヨセフのことを言っている。アリマタヤのヨセフはイエスを信じていた。しかし公然と告白することができなかった。

なぜユダヤ人を恐れたのか。ユダヤ人の中における地位、サンヘドリンの議員のゆえであろう。サンヘドリンの議員たちはほとんど皆、イエスに反対である。イエスを死罪に決定したのも、このサンヘドリンである。

「ユダヤ人を恐れて」とは、そのような地位を持つ者であれば、公然とイエスの弟子であることを言いあらわした時、その地位を追われるかもしれない。財産を奪われるかもしれない。そうした恐れがあった。それで、イエスの弟子であることを告白することができなかった。

(2) 人それぞれに弱さあり

人は誰でも弱さがある。金持ちの弱さ、地位ある者の弱さ、事業家の弱さがある。それでは、何にもない貧乏人は強いとかいって、そうでもない。何にもない者の弱さがある。

金さえあれば、自分をもっと強くなれるのに、と思っている人もいる。しかし、金持ちゆえに弱い。地位もしかり、^{ほま}誉れもしかり。アリマタヤのヨセフはその持てるがゆえに、自分の弱さを痛感する人であった。

彼がイエスを知らなかったら、他の仲間と同じようにその持てるもので満足していたかもしれない。しかしイエスを求めることで、彼はその弱さを認めざるを得なかった。



(3) イエスの隠れた弟子たち

①アリマタヤのヨセフ

ヨセフは、自分がイエスの弟子であることを公然と発言することはできなかった。ただ消極的に、仲間の議員たちに対して、イエスを罪人とする議会の議決に対して賛意を表さなかった。

《ユダヤ人の町アリマタヤの出身で、神の国を待ち望んでいた彼は、議員たちの計画や行動には同意していなかった》

ゲッセマネの園でイエスが捕らえられ、急に開かれた大祭司の庭における裁判に、ヨセフは同席していなかったであろう。

②ニコデモ

似た人がいる。ヨセフと同じくサンヘドリンの議員の一人であるニコデモ、ヨハネ福音書3章に出てくる。ヨセフは、ユダヤ人の民を代表する議員であり、ニコデモは律法学者を代表する議員である。

ニコデモについて、ヨハネ福音書3章から少し読んで見よう。

《さて、パリサイ人の一人で、ニコデモという名の人がいた。ユダヤ人の議員であった。この人が、夜、イエスのもとに来て言った。「先生。私たちは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神がともにおられなければ、あなたがなさっているこのようなしるしは、だれも行いうるできません。」》

イエスに対して尊敬の意を表している。彼は昼間来ないで、夜ひそかにイエスのもとにやってきた。彼の議員としての地位、パリサイ人としての立場上、公然とイエスとの関わりを現すことができなかった。だから夜ひそかにイエスを訪ねてきた。イエスに対する思いを言い表し、同時に、心の疑問をイエスに解いていただきたいと願ったようである。

そこでイエスと、新しく生まれ変わることについての対話が行われている。このニコデモも、アリマタヤのヨセフと同じように隠れたイエスの弟子の一人と言える。

ヨハネ7章にもニコデモのことが出てくる。仲間の者たちがイエスのことを批判していた時に、ニコデモが言葉をはさんでいる。ヨハネ福音書7章50節、

《彼らのうちの一人で、イエスのもとに来たことのあるニコデモが彼らに言った。「私たちの律法は、まず本人から話を聞き、その人が何をしているのかを知ったうえでなければ、さばくことをしないのではないか。」》

仲間の者たちが、一方的にイエスのことを批判している。それに対してニコデモが、私たちの律法によるなら、まずその人の言い分をよく聞いた上で、さばくということではなければならないのではないかと忠告をした。

《彼らはニコデモに答えて言った。「あなたもガリラヤの出なのか。よく調べなさい。ガリラヤから預言者は起らないことが分かるだろう。」》ニコデモの忠告を、仲間の者たちは、一言をもって退けてしまった。

(4) 新しい事が起こされる場

ルカ23章49節に、《しかし、イエスの知人たちや、ガリラヤからイエスについて来ていた女たちはみな、離れたところに立ち、これらのことを見ていた》とある。

《イエスの知人たち》と言われている人々の中に、ヨセフもニコデモもいたように思われる。そのヨセフが、イエスが息を引き取られた直後に、《この人がピラトのところに行って、イエスのからだの下げ渡しを願い出た。彼はからだを降ろして亜麻布で包み、まだだれも葬られていない、岩に掘った墓に納めた》のである。

このように弱かったヨセフが、イエスの遺体を求めてピラトの面前に出て行った。イエスの死が、弱いヨセフの心を変えた。新しい何かがヨセフに起こった。ピラトの所に行った。そしてイエスの遺体の下げ渡しを請い求めた。

そのようなことを申し出ることは、イエスの仲間であることを、はっきりと表すことである。議員の場から追われ、財産を没収され、ユダヤ人の会堂から追放される身となるかもしれない。

パリサイ人たちは、もしイエスに従う者がいたら、ユダヤ人の会堂から追い出すということを宣言していたから、そのことはヨセフも同じ仲間としてよく知っていたはずである。

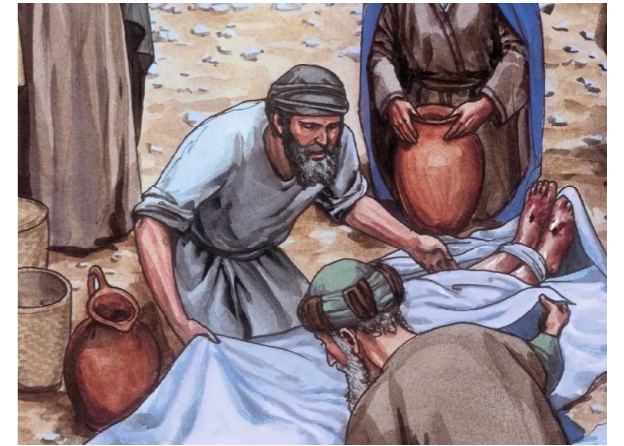
しかし、この時のヨセフは、もはやそのような地位も財産も、追放も、もはや問題ではなくなった。ただイエスの遺体を引き取りたかった。イエスの十字架の死という出来事が、ヨセフの心に新しい事を起こした。

(5) イエスの十字架の死のゆえに変えられた

イエスの十字架の出来事は、人類の罪すべて、災いのすべてを、ご自分に受けとめて十字架に死なれた。イエスの十字架の死に様を見つめていたアリマタヤのヨセフは、この勇気を与えられた。

強がりと言った弟子たちはどこにいるのか。22章33節で、ペテロは言った。《シモンはイエスに言った。「主よ。あなたと一緒なら、牢であろうと、死であろうと、覚悟はできております。」》と。

しかしその勇ましいペテロはどうしたか。3度もイエスを否認した。このイエスの十字架の場所に、ヨハネ以外に誰

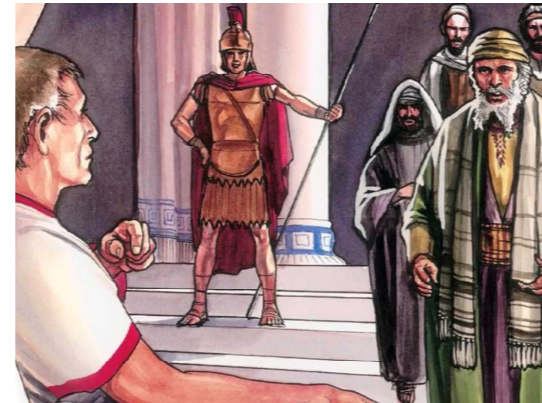


も姿を見せていない。ペテロはどこに行っているのか。公然とイエスの弟子であった者たちは、ユダヤ人を恐れてどこかに影をひそめている。

しかし弱くて、公然とイエスを言い表すことの出来なかった、隠れた弟子が、弱い弟子が、この時ただ一人、大胆にローマ総督の前にイエスの遺体を請い求めた。公然とイエスの仲間であることを言い表した。

アリマタヤのヨセフは変えられた。そうされたのはヨセフだけではない。このヨセフに呼応して、ニコデモも、イエスの埋葬に公然と参加している。ヨハネ福音書19章38節から読んで見よう。

《その後で、イエスの弟子であったが、ユダヤ人を恐れてそれを隠していたアリマタヤのヨセフが、イエスのからだを取り降ろすことをピラトに願い出た。ピラトは許可を与えた。そこで彼はやって来て、イエスのからだを取り降ろした。以前、夜イエスのところに来たニコデモも、没薬と沈香を混ぜ合わせたものを、百リトラほど持ってやって来た。》ニコデモのことが言われている。死体を葬るために用いる、没薬と沈香とを混ぜ合わせたものを百リトラ（約30kg）ほど持って来た。



(6) 地位も信仰で用いられれば

《この人がピラトのところに行って、イエスのからだの下げ渡しを願い出た。彼はからだを降ろして亜麻布で包み》これをマルコ15章43節から読もう。

《アリマタヤ出身のヨセフは、勇気を出してピラトのところに行き、イエスのからだの下げ渡しを願い出た。ヨセフは有力な議員で、自らも神の国を待ち望んでいた。》とある。

イエスのからだの下げ渡しを願い出ること、実に勇気を要すること。ヨセフが地位の高い議員であったということが、彼を隠れ信者とさせていたが、勇気を出してローマの総督ピラトの前へ出て行ったこの時、彼の議員たる身分が、確かにピラトの前にものを言った。

もし、そこらの名も無き群衆の一人がそんなことを申し出ても、ピラトは許さなかったであろう。しかし、ユダヤの地位高き議員たるヨセフが、ピラトの前に出て、そのことを言い表した。ピラトは否応なしにこれを許した。

(7) イエスの完全なる死

そこでさらにマルコ福音書を読んでみると、15章44節、《ピラトは、イエスがもう死んだのかと驚いた》イエスの死が非常に早かったことがわかる。いつも十字架の刑に罪人を処する時には、死ぬまで、息絶えるまでもっと長くかかるのが普通であった。ピラトはそれを不審に思って、そして、

《そして百人隊長を呼び、イエスがすでに死んだのかどうか尋ねた》 確かめさせた。《百人隊長に確認すると、ピラトはイエスの遺体をヨセフに下げ渡した》とある。

イエスの死は、非常に早かった。それもそのはずである。単なる罪人として十字架にかけられて死んだのではない。全人類の罪の重み、罪の刑罰が一身に集まっていた。私たちに想像もつかない悩み、苦しみであったに違いない。だから死が早まったのである。

他の二人の強盗は、まだ死んでいなかったから、足を折られて死期を早められたが、イエスはもう死んでしまっていたので足を折られなかったという記事が、ヨハネ福音書19章の中にある。

翌日は安息日であったから、どうしてもその日のうちに取り、片付けなければならなかった。だから夕方までにみんな殺してしまったわけである。

ここでピラトが《百人隊長に確認すると、ピラトはイエスの遺体をヨセフに下げ渡した》とある。イエスの死を確認した。これも意味深い出来事である。もし仮死状態のまま、そのからだをピラトがヨセフに渡したということになると、これはピラトの落ち度になる。だからピラトは、これをよく確かめさせたのである。

もしイエスの死が確かな死でなかったら、私たちの罪も仮死状態のまま解決しなかったことになる。イエスが完全に死なれたからこそ、イエスの死において、私たち罪の古き人は葬り去られ、死に去ったのである。

イエスの復活を信じたくない神学者の中には、イエスの仮死説をもって、イエスの復活を説明する学者がいる。イエスは死ななかつたのだ。早く死んだように息絶えてしまったように見えた。だが、あれは仮死状態だった。それをヨセフが請い受けて、墓に葬った。墓の中でイエスは息を吹き返したのだ。そして墓から出て来た。あれは、イエスの復活でもなんでもない。仮死状態から蘇生したのだ。そういう説を唱える神学者がいる。

(8) ヨセフの墓に埋葬される

《彼はからだを降ろして亜麻布で包み、まだだれも葬られていない、岩に掘った墓に納めた》ヨハネ福音書によると、その墓はゴルゴタの丘のすぐそばにあったようである。ヨハネ19章41-42節、《イエスが十字架につけられた場所には園があり、そこに、まだだれも葬られたことのない新しい墓があった。その

日はユダヤ人の備え日であり、その墓が近かったので、彼らはそこにイエスを納めた》それは安息日の前日であった。ユダヤの暦では、一日の始まりは、日没から始まるから、日没までにはどうしてもこれを処分しなければならない。それで近くににあった墓に、イエスを葬ったと言っている。

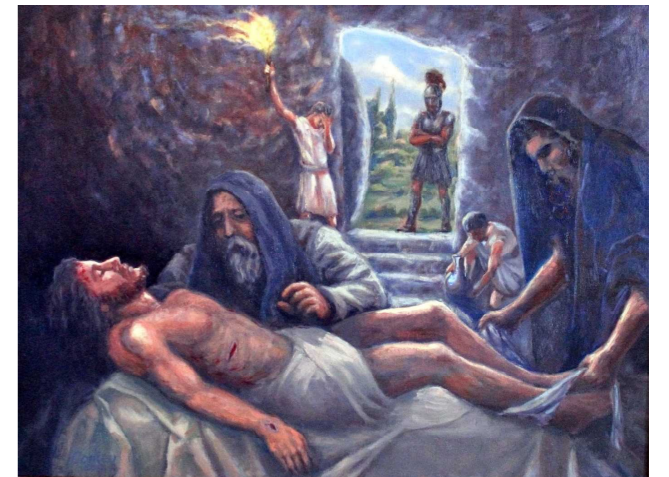
マタイ福音書によると、この墓は、ヨセフが持っていた墓であるということが分かる。マタイ福音書27章60節、《岩を掘って造った自分の新しい墓に納めた。そして墓の入り口に大きな石を転がしておいて、立ち去った》

この墓はヨセフが、自分と自分の家族のために用意しておいた、まだだれも葬ったことのない新しい墓であった。岩を掘った横穴である。

そこに棺に納めた遺体を納めるのである。ゴルゴタの丘の近くににあったというわけである。

《岩に掘った墓に納めた。この日は備え日で、安息日が始まろうとしていた》もう間もなく安息日が始まる。

イエスはだいたい午後3時頃に息絶えたようである。それから夕方まで3時間ほどの間に、すべてのことが行われた。



(9) 弱き者はイエスを慕う

《イエスとともにガリラヤから来ていた女たちは、ヨセフの後について行き、墓と、イエスのからだを納められる様子を見届けた。それから、戻って香料と香油を用意した》

アリマタヤのヨセフによるイエスの遺体の引き取りと埋葬、これに立ち会った者はニコデモ、それからガリラヤからついて来た女の弟子たちであった。いずれも弱い人々である。

ヨセフ、弱い人であった、隠れ信者であった。ニコデモもそうであった。またガリラヤからついて来た女たち、彼女たちも弱い人々であった。自分の弱さを知るがゆえに、ただひたすらイエスを思慕する人たちであった。

①ペテロとアンデレ

ここでこの当時のイエスの男弟子、十二弟子と比べてみるとどうであるか。ペテロ、アンデレ、漁師のわざを捨てて、網を捨てて直ちにイエスに従った。勇敢な弟子たちであった。

②ヤコブとヨハネ

ヤコブとヨハネもそうであった。父を雇い人と共に舟に残して、直ちにその場から、いっさいを捨ててイエスのあとについてきた、勇ましい弟子たちであった。

③取税人マタイ

取税人マタイは、カペナウムで取税人として仕事の途中にイエスに呼ばれて、そのままそこに仕事を置いて、イエスに従って行った。一筋な弟子である。

④その他の弟子たち

その他の弟子も、皆しかり、イエスと約3年間、寝食を共にし、苦勞を共にした。だれから見ても、イエスの弟子、公然とイエスの弟子であることを表していった人々である。まことに信仰深く、立派に見えた。いっさいを捨ててイエスに従っている姿である。

⑤イエスに向かう向かい方

しかし、これらの弟子たちがイエスに向かう向かい方には、ガリラヤの女たちがイエスに向かう向かい方、ヨセフやニコデモがイエスに向かう向かい方と違うものがあった。何が違ったのか。

弱い者はただイエスが慕わしい。イエス様だけが目当てである。しかし、強い弟子たちは、イエスが目当てだが、同時にそれに付属するものがある。イエスについていったら、イエスにあって、ある地位がそこに考えられる。

イエスが神の国の王となる時には、自分たちはその側近として、苦勞を共にしてきた者として、そのイエスの栄光にあずかり、地位高き場所につくことができる。そういう付き物が、いつも弟子たちの心の中には去来していた。



中でもヤコブとヨハネは、他の弟子たちを差し置いて、イエスの所にこっそり行って、あなたが御国をお持ちになる時には、どうか私たち兄弟をあなたの右と左に座る者にして下さるよう、今から予約しておいて下さいと言った。

それを聞いて他の弟子たちは、みな腹を立てた。というのは、結局お互い五十歩百歩、みんなそういう地位が欲しかったからである。